待降節黙想:12月17 日

黙想のテーマ:「主は近づいておられる」「イエスは人間の家族の一員となる」「キリストは私たちを豊かにしてくださる」

主は近づいておられる

イエスは人間の家族の一員となる

<u>キリストは私たちを豊かにしてくだ</u> さる

「主は近づいておられる」 皿。私た ちの切望の強さは日ごとに、時間ご とに増していきます。私たちの心 は、インマヌエルの到来に集中して います。今日の福音は、メシアの到 来を待ち望んできた長い世代の連鎖 を示しています。アブラハムからダ ビデ、そして聖ヨセフに至るまでで す。私たちはずっと後に生まれたの ですが、同じ約束の相続人なので す。ユダヤ民族の非常にたくさんの 世代が、どれほど熱心に約束のメシ アを待ち望んでいたかを想像するの は、容易ではありません。典礼は、 イエスの到来が間近に迫ったときの 歓喜の声を伝えるとき、私たちにヒ ントを与えてくれます。「天よ、喜 び歌え、地よ、喜び躍れ」(イザヤ 49.13) ~

アブラハムはこの長い連鎖の始まりであり、永遠に続く家族の最初の人です。彼は主を信じ、約束は守られました。「天を仰いで、星を数える

ことができるなら、数えてみるがよ い」(創世記15.5)。神は彼の忠実 さと他の多くの人々の忠実さを用い て、御子を私たちに遣わし、神と人 類との親密さを再び可能にしてくだ さいました。私たちの尊厳は回復さ れ、想像を絶する高みへと引き上げ られました。「目が見もせず、耳が 聞きもせず、人の心に思い浮かびも しなかったことを、神は御自分を愛 する者たちに準備された| (一コリ ント2・9)。私たちの心は救われ、 高値を支払って買い戻され、癒され たことを知る深い喜びに満たされま す。「神の威光をあがめ、権能を敬 うすべての天使とともに、わたした ちもあなたの栄光を終わりなくほめ 歌いますしほん

私たちの歌はいつも調子が合うとは限らないのですが、「"霊"自らが、言葉に表せないうめきをもって執り成してくださ」います(ローマ8・26)。私たちも来る日も来る日も、

神の計らいに応えたいと思います。 私たちを救うためにこの世に来られ た神の強い願いや、神の民を準備することへのこだわりを言葉によから とは不可能です。アブラハムの追 ビデまで14世代、バビロンへの追 ビデまで14世代、そしてキリストまで 14世代です(マタイ1・17参 照)。そして、わたしたちにおいて 喜び、感謝されるのは、神ご自身なのです。

私たちは皆、自分の家系図を持っています。イエスは自分の家系区を持ちたかったのです。そしてイエス人質といったがです。神ご自身が、ごはりかいではいるために来られ、ごれまでもに生きるために結びつけられるです。であれるです。受肉によって、神は人間

のすべてを自らの身にお引き受けになります。私たちに永遠の命を与えるために、一人ひとりの人生の物語にご自身を重ね合わせます。天と地の創造主は、人間の家族になることを望まれたのです。

「ベツレヘムの馬小屋で、天と地が 出会います。天国は空間の地理では なく、心の地理に属します。そして 聖夜、神の心は馬小屋に身をかがめ ました。神の謙遜は天国です。もし 私たちがこの謙遜に近づくなら、天 に触れることになります。その時、 地も新しくなります | 図。弱さ、脆 さ、凡庸さのあるところに神はおら れないと、私たちはよく思います。 もし私たちが罪に妥協せず、むしろ 人生における真の財を受け入れるよ う努力するなら、神の謙遜は私たち の心の馬小屋を拒まず、私たちの平 凡な生活、家庭のあらゆる瞬間に天 国をもたらします。

何世代にもわたって、ユダヤ人のこ の長いリストは、ベツレヘムへの新 牛児の到来だけが満たしてくれる切 望を経験してきました。ある人々 は、自分たちが何を切望しているの か、十分に理解していなかったで しょう。また戸惑いのあまり、より 身近で近づきやすい偶像に目を向け る者もいました。救いを切望する気 持ちは、多くの場合明確に理解する ことも、言葉にすることもできない まま、すべての人の心の中に存在し 続けています。私たちは幸運にも、 クリスマスの良い知らせをはっきり と把握することができます。私たち はイエスの到来を待ち望み、この良 き知らせが世界の最も遠い隅の、最 も困っている心に届くことを切望し ています。

「私たちのために身を低くしてくだ さった、いと高き主なる神よ。あな たは計り知れない方でありながら、 自らを小さくされました。あなたは 豊かでありながら、自らを貧しくさ れました。あなたは全能でありなが ら、自らを弱くされました | 四。時 には、私たちは正反対のことをしま す。聖アウグスティヌスがよく知っ ていたように。「人間であるあなた は、神になろうとして滅びました。 神である彼は人間であることを望 み、あなたを救いました。人間の高 慢は、それを癒すために神の謙遜を 必要とするほど強力だったので す! | 151

私たちをその肩に乗せて天まで引き上げてくださるのは、キリストなのです。高慢はほんの一瞬の栄光をもたらし、すぐにその代価を要求します。それは不安と心配をもたらします。他人より目立つための、新たな方法を探し求める必要があります。

それは決して平和や平穏な充足をもたらしません。聖ホセマリアはかつて、「私はこんな性格の悪いロバを知っている、もし彼がベツレヘムで牛のそばにいたなら、創造主を謙虚に敬うどころか、飼い葉桶のわらを食べていただろう」[6]。

それとは対照的に、神の愛は他の何 ものも成し得なかったように、私た ちの心を満たすことができます。神 の愛について語るとき、私たちは常 に物足りなさを感じるでしょう。神 の計り知れない愛について私たちが 知らないことは、私たちが把握して いることよりもずっと多いのです。 今日のミサの叙唱にあるように、語 り尽くせないほどの愛で彼を待ち望 んでいた聖母は私たちの祈りの親密 さの中で、聖母がよくご存じであ る、これらの秘密を私たちに教えて くださるでしょう。母親はいつも、 言葉にできないことを身振りで、愛 撫で表現する方法を知っています。

- [1] 聖務日課、12月17日、初めの祈り。
- [2] 待降節叙唱二。
- [3] ベネディクト十六世、説教、 2007年12月24日。
- [4] フランシスコ、説教、2014年12 月24日。
- [5] 聖アウグスティヌス、説教183。
- [6] 聖ホセマリア『内的覚え書き』 181番(1931年3月25日)。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/meditation/mokusou-taikou-17nichi/ (2025/12/13)